



CHAPTER 5

統合侵入検知セキュリティ

Cisco NX-OS ソフトウェアは、IPv4 と IPv6 の侵入検知パケット チェックによって特定の条件に一致し、ほとんどの実稼動ネットワークでは通常必要のないパケットをドロップして、ネットワークのセキュリティを強化します。デフォルトでは、ほとんどの Intrusion Detection System (IDS; 侵入検知システム) パケット チェックが有効になっています。このチェックを無効にする明確な理由がない限り、有効にしておく必要があります。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 「IDS チェックのステータスとカウンタの確認」
- 「IDS パケット チェックの無効化と有効化」

IDS チェックのステータスとカウンタの確認

導入 : Cisco NX-OS Release 4.0(1)

`show hardware forwarding ip verify` コマンドを使用して、IDS パケット チェックのステータスとカウンタを確認する必要があります。「Packets Failed」カウンタでは、パケットが IDS チェックに当てはまったかどうかを確認できます。この出力は、ネットワーク トラフィックを確認するとき、アプリケーションの問題をトラブルシューティングするときに役立ちます。場合によっては、IDS パケット チェックを無効にする必要があります。Cisco NX-OS Release 5.0(3) では、パケットがドロップされたときの Syslog メッセージと Embedded Event Manager (EEM) イベント トリガーのサポートが導入されました。

```
n7000# show hardware forwarding ip verify
```

IPv4 and v6 IDS Checks	Status	Packets Failed
address source broadcast	Enabled	0
address source multicast	Enabled	0
address destination zero	Enabled	0
address identical	Enabled	0
address reserved	Enabled	0
address class-e	Disabled	--
checksum	Enabled	0
protocol	Enabled	0
fragment	Disabled	--
length minimum	Enabled	0
length consistent	Enabled	0
length maximum max-frag	Enabled	0
length maximum udp	Disabled	--
length maximum max-tcp	Enabled	0
tcp flags	Disabled	--
tcp tiny-frag	Enabled	0

version	Enabled	0
-----+-----+-----		
IPv6 IDS Checks	Status	Packets Failed
-----+-----+-----		
length consistent	Enabled	0
length maximum max-frag	Enabled	0
length maximum udp	Disabled	--
length maximum max-tcp	Enabled	0

IDS パケット チェックの無効化と有効化

導入 : Cisco NX-OS Release 4.0(1)

この項は、参考のために記載しており、必要のない場合があります。

アプリケーションが適切に機能するように、IDS パケット チェックを無効にする必要がある場合があります。次のグローバル コマンドを使用して、パケット チェックを無効および有効にすることができます。この例では、「length maximum max-tcp」IDS チェックを無効および有効にします。他のパケット チェックも同じ手順で設定できます。

```
n7000(config)# no hardware ip verify length maximum max-tcp
```

```
n7000(config)# hardware ip verify length maximum max-tcp
```